

私学助成署名推進ニュース

全国私立学校教職員組合連合
No.18 2016年11月8日(火)

11/6 埼玉私立高校生フェスティバル 地域に愛され大いに盛り上がる 私学の高校生、父母、教職員が一体となり、国会議員を前に「私学の輝き」を披露

澄んだ冬空の快晴となった11月6日(日)。関東の3県、茨城、埼玉、神奈川で「私学のつどい」「私立高校フェスティバル」が開催されました。埼玉では、高校生の実行委員会の参加校数、実行委員数も拡がり、初のクラス参加団体も登場するなど、一歩前進したフェスティバルとなりました。



埼玉では県の中央部にあたる坂戸市若葉のショッピングモール「わかばウォーク」を会場に「埼玉県私立高校フェスティバル」が開催されました。暖かな陽射しの下、6校9団体のパフォーマンスと、その間に各校代表による私学の学費問題についての訴えを挟む構成で、県内私学と私立高校生の姿を存分にアピールしました。

地域に認知された「私学のイベント」

このショッピングモールでの開催になって10年近くになります。前日の11月5日には、坂戸市南町周辺に8,000枚の折り込み広告を入れています。この日も正午の開会から閉会の16:00までベンチに陣取るお年寄りやベンチ席の後ろで和太鼓からダンスのBGMまで足でリズムを取るお年寄りの姿が見られました。私立高校生の澁刺とした姿が地域のお年寄りの楽しみになっている様子でした。また、今年は中学3年生の進路に大きな影響のある県下一斉の業者テストの日でもあり、その帰りの中3生が私学のナマの姿を見る場面にもなりました。



石和全私研のオープニングも飾った
武蔵越生高校 和太鼓部

議員も高校生の姿に感動

この日、埼玉のフェスティバルには、小宮山泰子衆議院議員(民)と大野元裕参議院議員(民)ご本人と古川俊治参議院議員(自)行田邦子参議院議員(無)の秘書が参加されました。また、6名の国会議員からのメッセージも届けられました。小宮山議員は「このフェスを毎年開催されている高校生に敬意を表します」と発言、大野議員は発言の中で会場に向け「署名をお願いします」と働きかけておられました。



小宮山議員



大野元裕議員

新たな一歩 クラス参加団体

今年は武蔵越生高校から和太鼓部と吹奏楽部、山村国際高校からダンス部、よさこい部、マジック部、埼玉平成高校チア部、山村学園ダンス部、自由の森学園管弦楽部がパフォーマンスを披露しました。それとともに参加団体の新たな形として、正智深谷高校1年5組が学園祭でのダンス演技を引っ提げて登場しました。ダンスをとおしてのクラスの成長を披露するパフォーマンスに、その場に残っておられた大野議員もその経緯をスタッフから聞き、手拍子とともに応援の視線を送っていました。



ダンスを披露する1-5の皆さん

会場のあちこちで「署名をお願いします」

私学の姿を県民に披露する事と同時に、そんな素敵な私学で誰もが学べるように、と私学助成の拡充を訴えるのもフェスティバルのねらい。この日、1演目が終わる度に「署名お願いします」という父母・高校生の声が響きました。

パフォーマンスを終えた高校生がジャージ姿で、署名の協力を訴えている様子が非常に印象的でした。



パフォーマンス後に署名協力を訴える高校生

3校30名の高校生実行委員と会場がひとつになって「風になりたい」を合唱

「高校生宣言」が集会アピールとして採択された後、山村国際学園吹奏楽部の演奏、そして実行委員メンバーもステージに登り、吹奏楽部の演奏をバックに会場とともに「風になりたい」を合唱して、エンディングを迎えました。

正午からの4時間。澁刺とした私立高校生の姿とともに私学助成拡充を訴えたフェスティバル。参加者は1,500名を超えていました。



ステージに並んだ高校生実行委員のメンバー



山村国際高校吹奏楽部



署名協力を訴える東野高校父母